

# プレカット ニュース

一般社団法人 全国木造住宅機械プレカット協会

東京都千代田区永田町2丁目4番3号永田町ビル6階

TEL 03 (3580) 3215 FAX 03 (3580) 3226

<http://www.precut-kyokai.com>

## 平成27年度プレカット部材共済会通常総会が開催

### — 保証対象物件を非住宅分野にも拡大 —

全国住宅プレカット部材共済会は、平成 27 年度第 1 回理事会・第 13 回通常総会を平成 27 年 10 月 19 日（月）に永田町ビル 4 階 一般社団法人日本治山治水協会中会議室において開催しました。

総会の冒頭、原田副会長から「平成 26 年度事業は、最少目標棟数を 800 棟として、平成 26 年 8 月 8 日にスタートし、これの達成のため、事業参加会員の皆様にご努力・ご協力をお願いすることで事業に取り組んだが、保証書発行棟数は、557 棟で事業を終了することになった。

最近の住宅着工数の動向は、年率換算値でみると 90 万戸程度で推移し、消費税引き上げに対する駆け込み需要の反動減の影響は薄まりつつある。このような中で、公共建築物木造化促進等の非住宅分野での一般流通材を使用した木造建築物が増加しており、プレカット加工業の新たな需要分野として期待されている。

従来は、プレカット部材の瑕疵保証の対象は住宅に限られていたが、このような状況に対応するため、非住宅についても瑕疵保証の対象物件となるよう保険契約の見直しを行った。会員の皆さんにおいては、今後、需要が見込まれる非住宅分野の木造建築物用プレカット部材供給の新たな販売ツールとして活用していただけると期待している。

改めて、全会員がプレカット部材瑕疵保証事業の役割の重要性を再認識し、共済会のプレカット部材瑕疵保証事業が会員の相互扶助の精神に基づき充実しつつ、今年度においては、ぜひ目標棟数の確保が図れるよう、会員の皆様の忌憚のないご意見ご助言を頂き、平成 27 年度事業計画を決定していただきたく、ご審議の程をよろしく願います。」旨の挨拶がありました。

議事では、平成 26 年度事業報告及び収支決算報告、平成 27 年度事業計画（案）及び収支予算（案）が提案、承認され、特に、27 年度においては、①共済会とプレカット協会との連携強化、②共済会会員の啓発活動の推進、③顧客への普及活動の強化を重点的に講じることとなりました。また、役員改選においては、櫻井秀弥会長が退任し、新会長には原田実生副会長が、新副会長には大沢良則理事が選出されました。

議事終了後、プレカット部材瑕疵保証事業の協力会社である M&K コンサルタンツ（株）大串企画開発部長から、「住宅瑕疵保険の現状と部材瑕疵保証制度」について講演が行われ、その中で、最近の傾斜マンション問題で業者間の責任所在が注目されている折、プレカット部材瑕疵保証は工務店様に安心してプレカット部材を使用していただくツールであり、住宅瑕疵担保責任保険とは似て非なるものであることを再認識していただくよう PR することが重要と、瑕疵保証制度推進のための説明がありました。

# 地域の特色を生かした木材利用推進の新たな展開へ

## — 平成27年度木材利用推進全国会議が盛大に開催 —

木材利用推進中央協議会（会長 吉条良明全木連会長 構成：47 都道府県地域協議会、17 中央会員団体（当協会も参加））は、7月31日（金）に江東区新木場の木材会館において、平成27年度木材利用推進全国会議を開催しました。会議では、主催者として吉条会長のあいさつに続き、来賓として、沖林野庁次長、渋谷国土交通省木造住宅振興室長のあいさつがあり、引き続いて「公共建築物・街づくり等木材利用推進の取組み」の発表が行われました。まず、国の施策・取組として、林野庁木材利用課 吉田課長からは、「木材利用推進の取組状況」というタイトルでCLTの開発普及に向けた法整備の状況や公共建築物での木材利用の事例紹介がありました。次に、国土交通省官庁営繕部木材利用推進室 板橋室長からは、「公共建築物における木材利用の促進」と題して、公共建築物の木造・木質化について官庁施設整備に係わる法制度の整備状況や実際の木造・木質化の事例を紹介がありました。また、文部科学省文教施設企画部施設助成課 木村課長補佐からは、「木材利用による豊かな教育環境の実現」として、木造校舎の構造標準設計を用いた設計事例の紹介がありました。

講演会では「木材利用新時代の取組」をメインテーマとして、森林総合研究所 木口実研究コーディネーター、法政大学デザイン工学部建築学科 網野禎昭教授が講演を行いました。

全国会議の中では、木材利用推進中央協議会主催による「平成27年度木材利用優良施設」の表彰も行われました。今回は、農林水産大臣賞として、静岡県草薙総合運動場体育館「このはなアリーナ」が受賞し、この他林野庁長官賞3件、木材利用推進中央協議会会長賞5件が表彰されました。

## 平成27年度合法木材供給体制事業者認定団体研修会開催

### — 発電利用木質バイオマス証明についても研修カリキュラムに —

一般社団法人全国木材組合連合会（違法伐採対策・合法木材普及委員会）は平成27年9月7日（月）に、江東区新木場の木材会館において、平成27年度合法木材供給事業者認定団体研修を開催しました。認定団体による合法木材供給事業者認定は、平成18年度から実施し、公共建築物等木造化や木材利用ポイント事業等の木造建築物普及関連事業において、使用木材は合法性の証明されたものであることが必要となってきたことから、制度の普及が進み、現在、認定団体数150、認定事業体数12,007に達しています。

研修では、まず、林野庁の担当者から最近の違法伐採問題を取り巻く国内、国外の動向について解説があり、また、全木連からは、平成27年度事業の進め方と合法木材供給システムの現状と課題について説明が行われました。

今回の研修では、新たに、発電利用木質バイオマス証明についてもカリキュラムに加えられました。この研修を通して、今後増加していく木質バイオマス発電の固定価格買取制度で発電利用に供する木質バイオマス証明の適切な運用が期待されています。

## 平成27年度プレカットCAD技術者研修の予定

27年度のプレカットCAD技術者研修の開催予定は下記のとおりです。受講申込みは、各コース別に11月中旬以降開始する予定です。なお、1級コースと施設系中規模木造建築物対応コースの受講資格は、既に当協会のプレカットCAD技術者2級に登録されている方を対象といたします。

研修コース	開催日	会場	定員
2,3級コース（1期）	平成28年1月26,27日	東京：木材会館	30名
2,3級コース（2期）	平成28年2月4,5日	名古屋：名古屋木材会館	30名
施設系中規模木造建築物対応	平成28年2月23,24日	東京：木材会館	30名
1級コース	平成28年3月3,4日	東京：木材会館	30名

# 協会会員工場基礎調査結果について(平成27年度第2回)

## 1 プレカット工場毎の各加工設備の保有ライン数等

		なし	1台	2台	3台	4台以上	計	平均	(前年平均)
横架材 加工 ライン	工場数	4	21	12	1	4	42		
	延台数	0	21	24	3	24	72	1.71	(1.69)
	うち金物対応 工場率(%)	0	67	75	100	100	67		
柱材 加工 ライン	工場数	4	20	13	1	4	42		
	延台数	0	20	26	3	24	73	1.74	(1.69)
	うち金物対応 工場率(%)	0	55	69	100	100	60		
複合 ライン	工場数	27	12	1	2	0	42		
	延台数	0	12	2	6	0	20	0.48	(0.26)
	うち金物対応 工場率(%)	0	67	100	0	0	21		
ロボ ット	工場数	24	14	2	2	0	42		
	延台数	0	11	4	6	0	21	0.50	(0.20)
合計(延台数)		0	64	56	18	48	186		

## 2 羽柄材加工設備等の保有工場数

		保有台数別工場数					導入を 予定	導入を 検討中	予定 なし	合計
		1台	2台	3台	4台以上	計				
羽柄材 加工 設備	工場数	20	15	3	4	42	0	0	0	42
	割合(%)	47.6	35.7	7.1	9.5	100	0	0	0	100
	(前年割合(%))	(54.8)	(28.6)	(9.5)	(7.1)	(100.0)	(0)	(0)	(0)	(100)
パネル 加工 設備	工場数	23	9	2	2	36	0	1	5	42
	割合(%)	54.8	21.4	4.8	4.8	85.7	0	2.4	11.9	100
	(前年割合(%))	(50.0)	(19.0)	(7.1)	(4.8)	(80.9)	(0)	(2.4)	(16.7)	(100)

### ◇簡単なコメント

- 1 1工場当たりの加工設備の保有状況を前回調査時(平成25年12月)と比べると、横架材、柱材加工ラインの保有数は微減でありましたが、複合ライン、ロボットにおいては大きく増加しています。これは、既存のラインの他に、より効率的に特殊加工や中大規模木造建築物用の資材加工のために設備導入が図られているものとみられます。顧客の注文に柔軟に対応できる体制が作られつつあるものと判断されます。
- 2 羽柄材加工設備は全ての調査対象工場で保有されています。このうち、半数以上の工場では、複数の加工設備を保有しており、もはや、機械プレカット加工での多品目に亘る羽柄材加工は標準化されているといえるでしょう。  
一方、パネル加工機を保有している工場は、全調査工場の86%を占めており、また、36%の工場においては、複数の設備を保有しています。構造用合板等は、耐力壁、床、野地板等への使用が増加しており、その加工もプレカット工場で行い、現場施工の合理化にプレカット加工業が寄与していることがうかがわれます。

# プレカット業況調査(平成27年8月期)

一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会調べ (回答率: 62%)

設 問	回答率 (%)			DI	前回 DI
	(1)	(2)	(3)		
1-1 今月の受注額は3ヶ月前と比べて如何ですか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	29	56	15	+ 14	+ 10
1-2 3ヶ月後の受注額をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	21	61	18	+ 3	+ 11
2-1 貴社の坪あたり平均総加工単価はいくらですか。	答: 6,100円(対前回調査-30円)				
3-1 今月の製品加工単価は3ヶ月前と比べて如何ですか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	3	88	9	- 6	0
3-2 3ヶ月後の製品加工単価をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	0	82	18	- 18	- 14
4-1 今月の資材(製品)入手状況は如何ですか。 (1)容易 (2)変わらず (3)困難	12	73	15	- 3	+ 16
4-2 3ヶ月後の資材(製品)入手状況をどう予測しますか。 (1)容易 (2)変わらず (3)困難	15	70	15	0	+ 6
5-1 今月の収益は3ヶ月前と比べて如何ですか。 (1)良い(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪い(5%以上の減)	24	55	21	+ 3	+ 13
5-2 3ヶ月後の収益をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	21	55	24	- 3	- 9

\* DI = (1)の% - (3)の%、+の数値が大きいほど好況、-の数値が大きいほど不況。

\* 前回調査: 平成27年6月

## ◇簡単なコメント

8月の各設問のDIをみると、受注額は好転しており、年末まではこの状況が続くような気配である。しかし、加工単価は弱含みであり、また、資材の入手環境も変化しつつあるようで、秋需を期待するものの、3ヵ月後の収益は低調のようであり、このような不透明感が払拭されることが期待される。

1. 受注額のDIは+14で前回調査時(平成27年5月期)に比べて、緩やかなペースではあるが受注量を伸ばしている。また、3ヵ月後の予測のDIは+3であり、大幅な増加は見込めないものの、現在の受注動向が年末まで続くことが期待される。
2. 3ヵ月前と比較した製品加工単価のDIは-6であり、これを反映して、平均総加工単価は6,100円と3ヵ月前に比べて30円低下した。一方、3ヵ月後の製品加工単価のDIは-18で、今後、競争の激化とともに、加工単価の維持が課題になるとみられる。
3. 資材入手状況のDIは-3、また3ヵ月後の予測は0であることから、今回はマイナスに振れてはいるものの、今後、大きな変化はないものとみられ、輸入材の価格動向と国産材の出材動向が注目される。
4. このようなことから、3ヵ月前と比べた収益のDIは+3で、前回調査時の3ヵ月後の収益予測よりは良好であった。しかし、3ヵ月後の収益予測は-3であり、秋需の時期とはいえ、先行きには不透明感があるようだ。